

# かごしま家族ねっと

## 第16号

### 令和2年度 鹿施連評議員会（総会）について ～ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面総会 ～

令和2年度鹿児島県知的障害者施設家族会連合会（通称「鹿施連」）評議員会（総会）は、6月26日開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、二役会及び理事会（書面による理事会）等で協議し、会場のハートピアかごしまの入場制限もあり、書面による総会としました。

評議員会（総会）の各議事事項は、次のとおり

- 第1号議案 平成31年（令和元年）度事業報告について
- 第2号議案 平成31年（令和元年）度収支決算・監査報告について
- 第3号議案 令和2年度事業計画（案）について
- 第4号議案 令和2年度収支予算（案）について
- 第5号議案 役員を選出・承認について
- 第6号議案 各地地区活動報告について



であり、評議員の57施設の家族会長に評議会（総会）資料等を送付し、議決権行使書の提出をお願いしました。その結果、57家族会うち48家族会長より各議題に賛成との回答を得ました。残りの家族会長からは回答は未提出でした。評議会（総会）は、会則第14条第2項に基づき成立しましたのでお知らせします。会員の皆様方のご理解とご協力をお願いします。

### ～ 鹿施連 中村俊久会長あいさつ ～

盛夏の候 会員の皆様にはますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

ここ数ヶ月『新型コロナウイルス』に振り回され、さらには異常気象の影響が加わり、生活においても外出自粛や営業自粛で誰もが想像できなかった事態となっています。各施設でも新型コロナウイルス対策で利用者の行動や面会が制限され、職員もコロナを持ち込まない、移さないという気持ちで日々努力をなされて仕事をされていることと思います。特に、WHOからも知的障害者・家族・施設・医療関係者に対する特別な配慮が強く求められています。

我々家族会としても新型コロナウイルス感染防止を考慮して11月開催予定の「地域共生ホーム」に基づく研修会は中止をせざるを得ないかなと考えております。残念ながら会員同士の意見交換等ができません。しばらくは、新型コロナウイルスとともに生活をしていかざるを得ません。この最大の試練を一人ひとりが真剣に受け止め、責任ある行動により、感染拡大防止に努めていくことが大切と思われます。早く収束して以前の生活に戻れるよう、良いワクチン、特効薬が早くできることを願っています。

まだまだ、酷暑の日々が続きます。皆様方の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。

## ～ 令和2年度の事業計画 ～

今年度の事業計画として

- ① 組織の点検と強化
- ② 研修活動の推進
- ③ 啓発活動の推進
- ④ 全施連、九州協議会との連携の強化
- ⑤ 行政機関への働きかけ等
- ⑥ 関連団体との連携の推進

などを具体的な取り組みとしました。

特に、①組織の点検と強化、②研修活動の推進については、活動を強化してまいります。

## ～ 令和2年度 鹿施連理事について ～ (R元～R2年度)

No.	支 部 名	役 職	氏 名	施 設 名	備 考
1	鹿児島市地区	支部長	中村 俊久	しょうぶ学園	
2		副支部長	前田 隆幸	セルプいしき	
3			兼廣 倫生	あおいとり	
4	南薩摩地区	支部長	濱田 正幸	白藤園	新
5		副支部長	垂口 政治	ハイビスカス福祉会	新
6	北薩摩地区	支部長	宮司 礼子	川内なずな園	
7		副支部長	松元 由香里	川内なずな園	
8	大隅地区	支部長	町元 茂	トゥモローかのや	
9		副支部長	福田 琴美	トゥモローかのや	
10	奄美・種子屋久地区	支部長	上妻 正博	たちばな園	新
11		副支部長	橋田 隆治	愛の浜園	
12	二役会	理 事	岡元 鐵哉	サポートなごみ	

※令和2年度は、次の地区支部で理事の交代がありました。

- 南薩摩地区支部において、宮下設郎支部長が退任し、後任に濱田正幸副支部長が支部長へ濱田正幸副支部長の後任に垂口政治（ハイビスカス福祉会）が副支部長に就任されました。
- 奄美・種子屋久地区支部において、松下正治支部長が退任し、後任に上妻正博支部長（たちばな園）が就任されました。（各地区支部において任期が異なります。）

### 令和2年度 第16回全施連全国大会「inくまもと」大会中止決定

令和2年10月21日～22日、熊本市内においての全施連・全国大会「inくまもと」大会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参加される方々の健康と安全を考慮して中止となりました。

## 新型コロナウイルス（感染症）の突発的発生中において 障がいのある人にとっての懸念事項（抜粋したもの）

2020年3月、世界保健機構（WHO）は、伝染の速度と規模により、新規コロナウイルス疾患（新型コロナウイルス）の発生を広範囲に及ぶ流行病と宣言しました。

WHOと世界中の公衆衛生当局は、新型コロナウイルスの発生を阻止するための行動を取っています。

特に、障がいのある人には、新型コロナウイルスにより大きな影響を受ける可能性があります。しかし、適切な行動と保護対策を講じることでその影響を軽減することができます。

### ～ 新型コロナウイルス感染発生の際、障がいのある人に配慮が必要になるのは ～

障がいのある人は、次の理由で、新型コロナに感染するリスクが高いといわれています。

- 手洗いといった基本的な動作ができない。（例えば洗面台、シンク、ウォーターポンプといったモノに物理的に対応できない。また、人によっては、両手をこすり合わせるという動作を充分に行うことが難しい。）更に、支援が必要な場合や施設に入所しているなどでソーシャルディスタンスを保つことが困難な場合もあります。
- 新型コロナウイルスに感染した場合、健康状態により重篤になるリスクが高いです。
  - ・ 感染すると健康状態を悪化させ、併せて呼吸機能、免疫系機能の関連疾患、心疾患や糖尿病については、悪化させる可能性が高いです。
  - ・ 医療へアクセスすることへの障壁があります。

※ 家族や施設職員等が適切な措置をすれば、障がいのある人が経験するような障壁を軽減することが可能となります。

### ～ 障がいのある人及びにその家族等が配慮すべき活動 ～

#### ① 新型コロナウイルスへの感染を軽減するためには

障がいのある人とその家族は、新型コロナウイルス感染症発生中、基本的な感染防止策を取ることが難しい場合（例えば、洗面台、シンク、ウォーターポンプでの定期的な手洗いを行うことができないなど）、家族や施設職員等と協同して対応策を確認します。これらにあわせて

- 最大限可能な限り人込みを避け、他者との身体的な接触を最小限にし、ピーク時を避け必要な訪問等を行うようにします。

#### ② 必要なケアやサポートが継続して受けられるよう計画を立てます。

- 支援が必要な際は、関連の医療施設等の電話番号を控えておきます。

#### ③ 万が一、新型コロナウイルスに感染してしまった場合に備え家族で準備をしておきます。

- 万が一、体調不良となった際、家族が必要とする情報や服薬等を確認しておきます。
- 万が一、感染した場合、家族全員が何をすべきか理解と確認をしておきます。

#### ④ 家族の心身の健康に関しては

- 家族全員が、新型コロナウイルスに感染しないよう、基本的な予防対策を確実に行います。
- 家族がウイルス感染を呈する症状がある場合は、該当者を隔離し、マスクを着用し、早急に検査を受けさせなければなりません。また、全ての物品の表面を消毒し、家族全員に症状がないか確認する必要があります。可能であれば、既往症のある人や免疫力の低下した人は、隔離期間が終了するまで別の場所に移動してもらうと良いです。

## ～ 北薩摩地区支部の活動報告～

鹿施連・北薩摩地区支部(宮司礼子支部長)は、2月21日、薩摩川内市総合福祉会館において、映画「道草」を上映するという画期的な支部研修会を開催され、家族や施設職員等35名が参加しました。映画鑑賞後、意見交換会等を行いました。(3月2日付け、南日本新聞で報道され、記事、知的障害者福祉協会北薩摩支部とあるのは、「鹿施連・北薩摩地区支部」のことです。)

# 知的障害者の自立考える

知的障害者の自立生活を描くドキュメンタリー映画「道草」の上映会が薩摩川内市総合福祉会館であった。県内上映は初で、保護者の働きかけで実現。知的障害者福祉協会北薩摩支部の会合を兼ねて開かれ、施設関係者や障害者の家族ら35人が鑑賞後、意見交換した。



上映会は2月21日であった。映画は重度知的障害のある人が、訪問介護制度を使って自立生活を送る姿を追った。神奈川県相模原市で起きた殺傷事件の被害者で、一時心肺停止になった尾野一矢さんら4人の障害者が出演している。

親元を離れてアパートや一軒家で生活。昼夜交代で付き添う介護者に支えられながら、穏やかな日常を過ごす姿を映し出す。「道草」というタイトルは、興味の赴くままにゆっくりと介護者との散歩を楽しむ様子から取られた。出演者の一人は入所施設で職員に暴行を受けたことをきっかけに暴言を吐いたり暴力を振るったりするよ

## 薩摩川内で「道草」上映 「親なき後の参考に」



ドキュメンタリー映画「道草」の上映会  
＝薩摩川内市総合福祉会館

うになり、家に閉じこもる生活が続いていた。介護者との外出を繰り返すうちに回復の兆しが見られたものの、天候が悪く外出できない日が続くと衝動を抑えられなくなり、本人や周囲が苦悩する姿も描いている。上映後は「親の私たちが死んだ後のあり方として参考になった」「24時間交代で付き添い、同じ介護者が長く関わり続ける姿は理想的」と評価の声が上がった。一方で、「人的資源が豊富な

都会だからこそ可能。地方では施設が足りぬのみかだと思っている」「これだけ手厚い介護を受けるには、ある程度経済的余裕が必要なのは」など、実感がこもった意見が交わされた。

上映会を企画した川内なずな園保護者会の松元由香里副会長(55)は「映画のように寄り添うのは簡単ではない。それでも多くの人に見てほしい」と話し、「私自身も重度障害のある娘がいることで、ずっと母であることができ世界が広がった。言葉が発することができなくても『障害者には存在意義がない』なんてことは絶対ない」と力を込めた。(田畑沙織)

令和2年3月2日付け、南日本新聞記事については、南日本新聞社の許可並びにご協力をいただき掲載しています。